1. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

電車に乗る場合に、乗客が長い列を作って待っている。やっと電車が着て、乗客が次々に乗り込む。そのとき、わきからその列に割り込んで、電車に乗ってしまう人がよくある。そういうときに、自分の前に、わきからひとりくらい割り込んできても、ちょっといやな顔をするくらいでは、そのまま黙認してしまうことがある。

こういう場合は、「横から割り込みではいけません。」と（A）を申し込むべきである。それを、ずるずると黙許してしまうことは、一つの道徳的な罪悪であることを、よく承知すべきである。ひとりくらいのことに、むやみとやかましく言うことをなんとかなくはしたないように考えるのは、たいへんな間違いなのである。

この場合、（A）をすることは、（B）というよりも、むしろ（C）である。正直に公衆道徳を守って、列の最後のほうについている未知のひとりの友人に対して、当然果たさなければならない（C）なのである。

列の中に割り込むというような、明白に悪いことに対してはもちろんのこと、それほどはっきりしていない場合にも、自分で正当と考えた（A）は、平気ですべきよいのである。もし、先方に（D）があり、または、何か事情があったら、返答があるはずである。その返答が、なるほどと（E）できたなら、（A）を引っ込めたらよい。これは、きわめて当然な話である。

1) A～E に入ることばを、次のア～カから選んで、記号を書きなさい。

ア. 抗議 イ. 権利 ウ. 義務 エ. 理屈 オ. 納得 カ. 真実

A ( ) B ( ) C ( ) D ( ) E ( )
II. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

消化器系の伝染病も呼吸器系の伝染病も、pta菌によって次から次へと伝染していくものですから、病気を防ぐためには、pta菌を寄せ付けないことと、pta菌を殺すことが第一条件になります。

外出先から帰ったときや、食事の前には、うがいをし、手を洗うことでも、pta菌を寄せ付けないようにするよい方法です。①）、病人にはなるべく近づかないようにすることと、病人が使用した食器や着衣の回り品はよく消毒することなども大切です。

しかし、pta菌は小さくて、肉眼では見えないし、方々に広がっていますから、完全にそれを避けることはなかなかむずかしいことです。

②、たとえばpta菌に触れても、それに負けない健康な体を作ることが大切です。③、常に衛生に注意しけじゅうぶんに栄養をとって体をじゅうぶにして、また伝染病の流行する季節には、予防注射をして、pta菌に打ち勝つ力を体内にたくわえておきなけらたはありません。

結核も最近では、ビーシージー（BCG）で発病を防ぐことができ、レントゲン検査で発病したものを早く発見することができ、化学療法でなおすことができるようになりました。しかし、④、この病気で毎年二万人もの人が死亡しています。その原因を調えてみますと、発見が遅れたり、発見しても完全な治療をしなかったことによる場合が大部分を占めていることがわかりました。

⑤、結核にかからないようにするためには、睡眠と休養をじゅうぶんにとり、無理や不摂生なことは避け、同時に毎年必ず定期的に健康診断を受け、常に健康を保つことが大切です。

1) ①〜⑤に入ることばを、次のア〜カから選んで、記号を書きなさい。

ア. そこで
イ. それでもなお
ウ. それには
エ. それから
オ. だから
カ. 結局
① ( ) ② ( ) ③ ( ) ④ ( ) ⑤ ( )

III. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

湖が入る日に赤く染まるのをながめながら夕食を食べる間も、過ぎ行く時の経過をおしとどめたい思いがする。はしを止めて、窓の外へ視線を投げる時間が、つい長くなる。渴む間もなく、日はあわただしく落ちて、夕やみがせまってくる。

ふろから上がってきたら、辺りは、もうすっかり暮れていた。山も原始林も、
黒く寝静まっている。
しばらくすると、月が昇ってきた。青くさえた月の光だ。霧は晴れている。山はシルエットになって目の前にやさしく座り、黙然と白銀に光る湖を見下ろしている。
昼間と同じ場所なのに、まるで感じは一変した。現実のものとは思えない。夢幻の世界の山と湖のようである。湖面は冷たい光を放ちながら、しかも引き込むような怪しい力を持っている。うっかり外へは出られない。ひとり湖畔にたたずんだりしたら、何の考えも、抵抗もなしに、身をおどらせてとびこみたくなるかもしれない。
湖の底に主がいて、人を引きずり込むなどという言い伝えがよくあちこちにあるが、そんな伝説を生み出した人々の気持ちが、わかったような気がする。

1) 文章の内容に合っているものに○、合っていないものに×を書きなさい。
   
   ( ) 日があわだしく落ちるので、夕食を食べる時間が足りない。
   ( ) 昼間も山と湖を見た。
   ( ) 湖の底に主がいるという言い伝えは本当だと思う。
   ( ) 湖面の持つ怪しい力は恐ろしいものだ。
   ( ) 山と湖の美しさに感動した。

IV. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「お」や「ご」を使ってよい場合としては、少なくとも次の四つをあげることができる。
その一は、①裏に尊敬の気持ちを表す場合。
その二は、②相手の物事を表す場合。
その三は、③自分の物事であっても、相手の人と関係のある物事であるため、「お」や「ご」を使う慣用のあるもの。
その四として、④「お」や「ご」を取ってしまうこと、おかしなことになるものをあげることができる。

1) ①〜④の例はどれですか。次のア〜エから選んで、記号を書きなさい。

ア. 「おぼうしごればどうですか」「ご意見をお聞かせ下さい」
イ. 「お手紙を差し上げます」「ご遠慮いたします」
ウ. 「おはよう」「ご苦労さま」
エ. 「先生のお望み」「先生のご講義」

① ( ) ② ( ) ③ ( ) ④ ( )
V. 次の文章を読んで、後の問いに日本語で答えなさい。

カンダタは、早速そのくもの糸を両手でしっかりつかみながら、一生懸命に上へ上へとたぐり登り始めました。

しかし、地獄と楽園との間は、何万里とぞいますから、いくら焦ってもみるところや、容易に上へは出られません。ややしばらく登るうちに、とうとうカンダタもくたびれて、登れなくなってしまいました。そこで、仕方がございませんから、まず一休み休むつもりで、糸の途中にぶら下がりながら、はるかに目を下見下ろしました。

すると、一生懸命登ったAかいがあって、さっきまで自分がいた血の池は、今では、もう、やみの底にいつの間にか隠れております。それから、あの、ほんやり光っている恐ろしい針の山も、足の下になってしまいました。この分で登っていけば、地獄から抜け出すのも、存外わけがないかも知れません。カンダタは、両手をくもの糸にからみながら、①ここへ来てから何年にも出したことのない声で、B「しめた、しめた。」と笑いました。ところが、ふと気がつきますと、くもの糸の下の方には、数限りもない罪人たちが、自分の登った後をつけて、まるでありの行列のように、やはり上へ上へ、一心によって登って来るではございませんか。自分一人でさえ切れそうな、この細いくもの糸が、どうしてあればけの人数の重みに耐えることができましょう。もしこの、途中で切れたら、致しましたら、せっかくここまで登って来たこの願心な自分までも、元の地獄へ逆戻しに落ちてしまわなければならない。

そこでカンダタは、大きな声を出して、
「こちら、罪人ども。このくもの糸はおれのものだぞ。おまえたちは、一体だれにきいて登って来た。降りろ、降りろ。」
とぬめきました。

その途端でございます。今まで何ともなかったくもの糸が、急にカンダタのぶら下がっている所から、(3)と音をたてて切れてました。ですから、カンダタもたまりません。あっという間に風を切って、こまのように(4)回りながら、(5)うちにやみの底へ、真っ逆さまに落ちてしまいました。

1) A「かい」に一番近いことばを次のア〜エから選んで、記号を書きなさい。

ア. 援助 イ. 効果 ウ. 努力 エ. 苦労

2) ①と②の「ここ」とはどこですか。次のア〜オから選んで、記号を書きなさい。

①( ) ②( )

ア. 地獄 イ. 極楽 ウ. 糸の途中 エ. 地の池 オ. 針の山
3) どうしてカンダタはB「『しめた、しめた。』と笑いました」か。

4) どうしてくもの糸はC「切れました」か。

5) (③) ~ (⑥) に入ることばを次のア~オから選んで、記号を書きなさい。
   ア. ふつり イ. ふつぶつ ウ. くよくよ エ. くくるく オ. みるみる

6) この文章の作者を次のア~オから選んで、記号を書きなさい。
   ア. 太宰治 イ. 芥川龍之介 ウ. 森鴎外 エ. 夏目漱石

VI. 次の文章を、シンハラ語か英語、どちらかに訳しなさい。

同窓会の席で、Tという級友が、先生に頭を下げて懇意に話をしていた。
「先生、近く孫が生まれますので、一本お願いします。」
「そうか。今度は何にするかなあ。」
「長男のときや松で、長女が桜、次女が梅でしたからねえ。」
「いいのを考えておこう。」

彼女は、息子が生まれ娘が生まれると、先生に植樹をしていただいていた。
見上げるような大木になっていると聞いたとき、私は涙がこぼれそうになった。
自分の持っていたものがはっきりと見えてきた。
父の職業のせいで、生まれたときから社宅暮らしであった。しかも、三年たつと転勤をしなければならない。

庭があり植木はあっても、それは会社の庭であり、自分のうちの木ではなかった。枝は傷めたり枯らさないように気をつけたから、すぐに別れると思うと育てる愛着はわからなかった。

育ってゆくものを朝晩眺める視線が私の暮らしにはなかった。私のなかに木は生えていなかったのである。
VII. 次の題から一つ選んで、作文を書きなさい。

① 私の尊敬する友人
② 効率よい日本語学習法
③ スリランカの観光業を発展させる方法

VIII. ある都市はどのように管理されているか。

(1) 市民権を有する市民は市議会に4年に1度選ばれる。
   1 綿の製品
   2 木の製品
   3 竹の製品
   4 糸の製品
   5 織物
   6 木工品

(2) 火事の際には火災予防法が適用される。

以下のような災害に備えて火災対策が進められている。